

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
E142N007	学習英文法 (English Grammar)											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
必修	2	2	教育学部 令和2年度 以降入学生用			氏名 橋本 美喜男 E-mail mikioha@oita-u.ac.jp 内線 7578						
授業の概要	母語である日本語と比較しながら、英語の各品詞の性質(特に名詞、代名詞、動詞など)や文の構造(いわゆる5文型)の理解を学生は深めるとともに、中学校で学習する基礎的な語彙を重点的にかつ能動的に学習する。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	中学校及び高校における英語、さらに小学校英語に対応可能な、英語の基礎的な文法力を身につけることを本授業の目的とする											
目標2	また、基本語彙を詳しく調べることが授業の課題とすることで、学生の積極的な学習を促したい											
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	導入： 言語と文法について											
2	文型について(特に5文型)											
3	Beの性質と用法について											
4	Haveの性質と用法について											
5	Doの性質と用法について											
6	名詞の数について											
7	冠詞について											
8	行為と状態を表す動詞											
9	能動態と受動態について											
10	関係代名詞と関係副詞について											
11	形容詞と副詞について											
12	比較構文について											
13	前置詞について											
14	数量詞について											
15	否定について											
ラーニング	A:知識の定着・確認	毎回小テストを行う。				工夫 その 他の	調べ学習を行う。					
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	小学校や中学校で使用される教科書の中で、英語の語法や文法について疑問点等をあらかじめ考えさせ、授業でレポートしてもらう。(10h)										
	事後 学修	疑問点等について、さらに調査をさせ、より深い理解を身につけさせる。(10h)										
教科書	Moodleを通してプリント等を配布する。											
参考書	安藤貞雄(2005)『現代英文法講義』 開拓社											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	毎回の授業中の課題	40%										
	最終の課題	60%										
注意事項	電子辞書を持ってくること。											
備考	Moodleで出席を取り、課題をしてもらうので、パソコンまたはスマホが必要です。											
リンク	URL											